



(c) 岩手日報 (c) 新藤健一 (c) 豊田直巳 (c) 新藤健一 (c) 共同通信 (c) 森住 卓 (c) 高橋邦典 (c) 朝日新聞



# 3.11 ユニセフ東日本大震災報告写真展



(c) 野田雅也 (c) 新藤健一 (c) 桃井和馬 (c) 野町和嘉 (c) 岩手日報 (c) 読売新聞

2011年9月5日(月)-11日(日)  
東京国際フォーラム

ロビーギャラリー・ガラス棟地下1階【開催時間】9:00~17:00  
東京都千代田区丸の内三丁目5番1号  
JR線有楽町駅・地下鉄有楽町線有楽町駅より徒歩1分 / 東京駅より徒歩5分



(c) 北羽新報

■参加新聞通信社25社 ■参加写真家21名

- |       |        |       |        |
|-------|--------|-------|--------|
| 朝日新聞  | デーリー東北 | 田沼武能  | Q.サカマキ |
| 毎日新聞  | 北羽新報   | 細江英公  | 桃井和馬   |
| 読売新聞  | 秋田魁新報  | 熊切圭介  | 高橋邦典   |
| 共同通信  | 山形新聞   | 江成常夫  | 野澤亘伸   |
| 時事通信  | 新潟日報   | 桑原史成  | 鍵井 靖章  |
| 東京新聞  | 茨城新聞   | 久保靖夫  | 佐々木康   |
| 産経新聞社 | 静岡新聞   | 新藤健一  | 野田雅也   |
| 岩手日報  | 中日新聞   | 花井 尊  | 上田 聡   |
| 岩手日日  | いわき民報  | 安達洋次郎 | (順不同)  |
| 河北新報  | 常陽新聞   | 野町和嘉  |        |
| 福島民報  | 千葉日報   | 西宮正明  |        |
| 福島民友  | 埼玉新聞   | 森住 卓  |        |
| 東奥日報  | (順不同)  | 豊田直巳  |        |

【主催】公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)  
 【後援】外務省 / ユニセフ東京事務所  
 【協力】日本新聞博物館 / 東京写真記者協会 / 東北写真記者協会  
 【協賛】   
 【ロジスティック】写真弘社  
 【構成】新藤健一  
 【問合せ先】日本ユニセフ協会広報室  
 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 TEL 03-5789-2016



(c) 花井 尊 (c) 豊田直巳 (c) 毎日新聞 (c) 高橋邦典 poster design Yasuko Keshiga



被災地にユニセフの救援物資を運ぶ、生協の支援トラック  
3月23日 宮城県女川町（新藤健一 撮影）

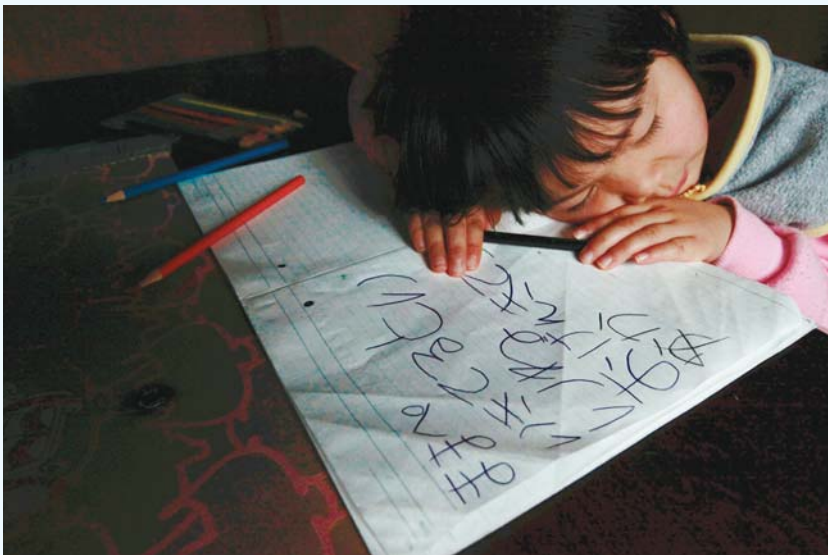
2011年3月11日、日本は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われました。その直後から、日本ユニセフ協会には、国内外から被災した子どもたちのために温かい支援が寄せられました。ニューヨークのユニセフ本部もまた、日本ユニセフ協会を通じ、約半世紀ぶりとなる日本への支援を表明しました。

あの日から半年、日本ユニセフ協会は、被災地の方々とともに、子どもたちの健康を守り、教育を再開し、心の回復を支える活動を展開して参りました。子どもたちが直面しているいくつもの苦難、そして子どもたちを守りながら必死に復興に向かって歩む被災地の方々の姿を目の当たりにし、私たちは、この災害の惨状と窮状、子どもたちの実情、皆さまからの募金によって展開された緊急支援並びに復興支援動の様子を世界に伝えるとともに、息の長いご支援を訴えていかなければならないと強く感じました。

このたび、多くの著名な写真家の方々、国内報道各社、協力企業の皆さまにご支援いただき、写真展という形で広くご報告する機会を得ることができました。本写真展の実現にご協力くださった皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

写真1枚1枚の向こうにあるそれぞれの大切な命と、被災を乗り越えて生きる子どもたちの姿、そして復興への希望を、一人でも多くの方に感じていただければ幸いです。

2011年9月  
公益財団法人 日本ユニセフ協会



東日本大震災で大津波に遭い、奇跡的に助かった愛海ちゃん(4才)。両親と妹が行方不明になり、一人ぼっちになった。「ままへ手紙を書く」と言い出した。1文字1文字、1時間近く書いた。「ままへ。いきているといいね。おげんきですか」。書いて疲れたのか、すやすやと寝入った  
3月22日 岩手県宮古市（読売新聞 立石紀和 撮影）



原発事故で避難、体育館で寝る福島県浪江町の子どもたち  
3月17日 山形市総合スポーツセンター（佐々木康 撮影）



アグネス・チャン大使と電車ごっこする園児  
4月30日 岩手県陸前高田市（新藤健一 撮影）

一瞬にして、たくさんの尊い命、人々の生活が奪われました。しかし破壊された町の瓦礫の間には、沢山の輝く命、溢れる優しさ、限りない希望が生まれています。失われた尊い命、魂に支えられて、次の世代は遅く育っていく事でしょう。

ユニセフも、日本ユニセフ協会を通じて、約50年ぶりに日本に支援してくれました。みんなと一緒に子どもたちを抱きしめて、より美しく、強い日本を再建するために、がんばっています。

子どもたちの瞳に、その笑顔に、命のすばらしさを感じました。沢山の写真家の方達の心の目に映った大震災の瞬間、私もじっと目を凝らして見つめてみたいと思います。

日本ユニセフ協会大使 アグネス・チャン



アップライトピアノの鍵盤が鈍く光る。ピアノのすぐ近くにはシンバルのセットがド口に埋もれていた  
4月5日 大船渡湾水深5m（鍵井靖章 撮影）



赤浜小学校に避難したカラサワ・スエさん(84)と窓ガラスに映る被災者たち  
3月25日 岩手県大槌町（Q. サカマキ 撮影）

## 交通のご案内

東京国際フォーラム  
東京都千代田区丸の内三丁目5番1号  
○ JR線  
有楽町駅より徒歩1分  
東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）  
○ 地下鉄  
有楽町線：有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡  
日比谷線：銀座駅より徒歩5分 / 日比谷駅より徒歩5分  
千代田線：二重橋前駅より徒歩5分 / 日比谷駅より徒歩7分  
丸ノ内線：銀座駅より徒歩5分  
銀座線：銀座駅より徒歩7分 / 京橋駅より徒歩7分  
三田線：日比谷駅より徒歩5分

